

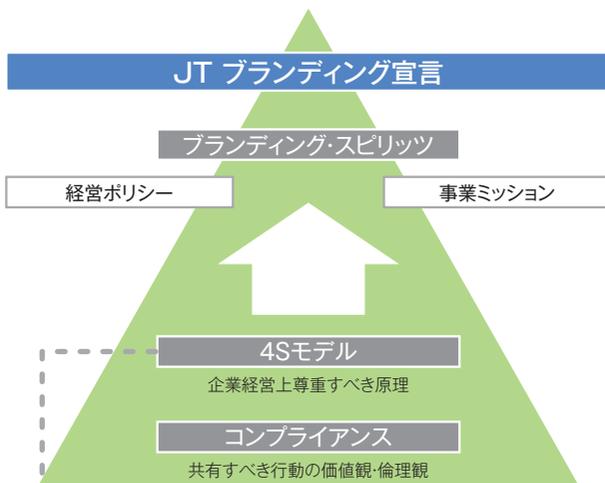
目指す企業像の実現へ向けて



涌井 洋治
取締役会長

木村 宏
代表取締役社長

JTグループは、あらゆる活動を通じて、ステークホルダーの方々に「期待を超える驚き、喜びといった、JTならではの付加価値」を提供することを「ブランディング(branding)」と定義し、それを実現することにより、社会において「かけがえのない存在」になりたいと考えています。



JTブランディング宣言 (2002年制定)

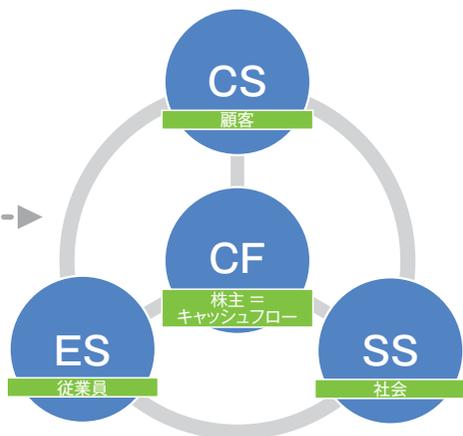
～すべてのステークホルダーに「期待を超える驚き、喜びといったJTならではの付加価値」を提供していくことを明確化したもの～

- 私たちは、顧客に信頼され、推奨されるユニークなブランドを育成する世界的ブランディング企業を目指します。
- 私たちは、ブランドこそが、ステークホルダーが抱く期待と信任から生まれる最大の経営資産であると考えます。
- 私たちは、優れたブランド価値を構築し、リフレッシュしていくために、経営資源と意志を投入します。
- 私たちは、ブランドには誇りを、その価値の構築には責任を持ちます。

4Sモデル

高品質の事業活動によって生み出される資金を循環／拡大することを通じて、株主、顧客、従業員、社会の四者に対する責任をバランス良く高い水準で果たし、四者の満足度を高めていく、という企業経営の基本原則を示したものです。

- CS 顧客を深く理解し、魅力ある商品・サービスを通じて顧客に喜びを提供し続けます。
- ES 能力と意欲と責任を有する有能な人材に魅力的な「場」を提供します。
- SS 高次の倫理観に基づく事業活動を通じ、地球社会、地域社会で歓迎される良き企業市民となります。
- CF 経済性を、組織の共通基盤言語とします。環境変化に対する適応力を高める観点から、事業構造の変革に不断に取り組みます。



目指す企業像（長期ビジョン）

—— 価値創造ビジネスを多角的に展開するグローバル成長企業へ ——

国内たばこ事業	海外たばこ事業	医薬事業	食品事業
<ul style="list-style-type: none"> 「利益創出の中核」として、母国市場である国内市場において、すべての面で競合他社を圧倒する 	<ul style="list-style-type: none"> 収益性あるいは市場シェアにおいて、リーディングカンパニーとしての地位を継続しうる市場を数多く保有し、「利益成長の牽引役」としての役割を果たし続ける 	<ul style="list-style-type: none"> 柱事業として、強固な事業基盤をベースに安定黒字化を達成する 	<ul style="list-style-type: none"> 総合食品メーカーとして、世界水準の競争優位性を確立する

中期経営計画「JT2008」とその進捗

—— 今後想定される様々な環境変化を克服し、将来に亘る持続的成長を目指す ——

全社業績	資源配分												
<ul style="list-style-type: none"> 2008年度全社EBITDAは2005年度比+約200億円を目指す *中期経営計画「JT2008」は自律的成長を前提とし、大規模なM&Aを計画数値に織り込んでいません。 <p>EBITDA</p> <table border="1"> <tr> <td>2005年度</td> <td>4,334億円</td> </tr> <tr> <td>2006年度</td> <td>4,646億円</td> </tr> <tr> <td>2007年度</td> <td>6,021億円</td> </tr> </table>	2005年度	4,334億円	2006年度	4,646億円	2007年度	6,021億円	<ul style="list-style-type: none"> 海外たばこ事業、食品事業を中心とした外部資源獲得による成長機会を積極的に探求 <p>主な買収</p> <table border="1"> <tr> <td>2007年4月</td> <td>Gallaher Group Plc 100%子会社化</td> </tr> <tr> <td>2007年12月</td> <td>加ト吉のTOB成立。08年4月100%子会社化</td> </tr> <tr> <td>2008年4月</td> <td>富士食品工業100%子会社化</td> </tr> </table>	2007年4月	Gallaher Group Plc 100%子会社化	2007年12月	加ト吉のTOB成立。08年4月100%子会社化	2008年4月	富士食品工業100%子会社化
2005年度	4,334億円												
2006年度	4,646億円												
2007年度	6,021億円												
2007年4月	Gallaher Group Plc 100%子会社化												
2007年12月	加ト吉のTOB成立。08年4月100%子会社化												
2008年4月	富士食品工業100%子会社化												

国内たばこ事業	海外たばこ事業	医薬事業	食品事業												
<ul style="list-style-type: none"> 「利益創出の中核」として、現行程度の利益水準を目指す <p>EBITDA実績</p> <table border="1"> <tr> <td>2005年度</td> <td>3,058億円</td> </tr> <tr> <td>2006年度</td> <td>3,265億円</td> </tr> <tr> <td>2007年度</td> <td>3,067億円</td> </tr> </table>	2005年度	3,058億円	2006年度	3,265億円	2007年度	3,067億円	<ul style="list-style-type: none"> 「利益成長の牽引役」としての業界内トップレベルの自律的成長を継続 <p>EBITDA実績^(※)</p> <table border="1"> <tr> <td>2005年度</td> <td>925百万米ドル</td> </tr> <tr> <td>2006年度</td> <td>1,090百万米ドル (18%増益)</td> </tr> <tr> <td>2007年度</td> <td>2,452百万米ドル (125%増益)</td> </tr> </table> <p>※ JTへのロイヤリティ支払い前</p> <p>2007年4月 Gallaher Group Plc 完全子会社化</p>	2005年度	925百万米ドル	2006年度	1,090百万米ドル (18%増益)	2007年度	2,452百万米ドル (125%増益)	<ul style="list-style-type: none"> 開発品の着実なステージアップとR&Dパイプラインの充実 <p>臨床開発品: 11品目 (2008年5月1日現在)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 総合食品メーカーとしての基盤を確立 <p>2008年4月、加ト吉グループ及び富士食品工業完全子会社化</p>
2005年度	3,058億円														
2006年度	3,265億円														
2007年度	3,067億円														
2005年度	925百万米ドル														
2006年度	1,090百万米ドル (18%増益)														
2007年度	2,452百万米ドル (125%増益)														